

福祉連絡会で地域のつながりを!

第3回宍粟市地域福祉のつどいを開く

2月20日(日)、宍粟防災センターにおいて「第3回宍粟市地域福祉のつどい」を開催し、自治会長、議会議員、民生委員、福祉委員、そして一般市民の方など約300名の参加がありました。

このつどいは、社協の使命である地域福祉の推進について関係者で話し合うことを目的に、合併後2年に1回開催しているものです。

今回のテーマは、「地域での新しいつながりのカタチをつくるために」。

今月の特集は、この「地域福祉のつどい」について報告します。



第3部フォーラムの様子 左からコーディネーター：藤井博志准教授
パネラー：助光和雄さん、段林繁さん、小椋清之助さん、堂場政彦さん
うしろは宍粟手話サークル連絡会のみなさん

◀地域での新しい
つながりのカタチ
について考える

社協合併後、3回目となる今回のつどいでは、今問題となっている「無縁社会」や、限界集落化していく市の北部地域の課題、そして婦人会など既存組織がなくなっている中で、あらためて「地域での新しいつながりのカタチをつくるために、今必要なことは何か」を参加者と共に考えました。

地域が抱える課題や
地域を元気にする
取り組みを発表

第1部の式典では、鶴崎社協会長のあいさつのあと、合併後の社協初代会長として社協組織の基盤づくりと地域福祉活動の推進にご尽力いただいた春田重行前会長へ感謝状を贈呈しました。

第2部では、神戸学院大学の藤井博志准教授より「地域福祉は今：」についてお話し



「オカリナフレンズ小鳩」のみなさんの演奏で始まりました

ただいたあと、本会の可藤事務局長が「地域福祉の目で見ると、宍粟市の地域状況」と題して、市の人口構造や旧四町の現状、そして宍粟市が抱える地域福祉の課題や社協の取組について報告しました。第3部のフォーラムでは、藤井准教授をコーディネーターに、地域福祉推進計画策定委員や社協理事4名がパネラーとして登壇し、それぞれの地域の課題や、地域をもっと元気にするため取組について、次のような発表を行いました。